

「人」台端末の効果的な活用に向けた取組

越前市岡本小学校

1. はじめに

本校では、下記の研究テーマのもと、校内研究に取り組んできた。

学ぶ楽しさ・わかる喜び・できた感動・自己有用感を味わえる授業づくり
～ねらいに応じた「考えを共有し深める場面の設定」・「ICTの効果的な活用」～

本年度は、「学びを楽しもう!」をキーワードに、「児童につけたい力」「児童が学びを楽しむ姿」を意識して、「人」台端末のメリットを生かした学びを楽しむ授業づくりを目指した。

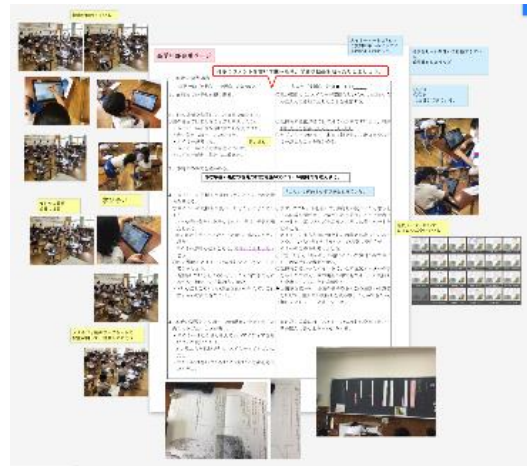
2. 取組の概要

①授業研究(一人一授業)

毎月1回を目安に一人一授業を計画して取り組み、授業後には研究会を設定した。研究会で話題にしたいこととして、「児童が学びを楽しむ姿」「本単元で目指す児童につけたい力」「授業の観点」の3つを設定した。授業を参観する際にはiPadを持ち、MetaMojiに保存された指導案に写真や付箋を随時貼り付けて記録できるようにした。

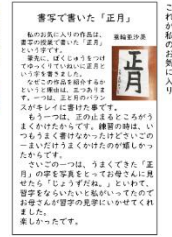
○授業参観の際に記録したMetaMojiノート

- ・「クラス学習ページ」または「グループ学習ページ」にすることで、複数の教員が同時に書き込みができ、授業を参観しながら情報を共有できる。
- ・「先生レイヤー」には、自分用の記録ができる。
- ・授業研究会にそのまま活用し、追記もできる。
- ・いつでも何回でも見てふりかえることができ、指導の参考にしやすい。

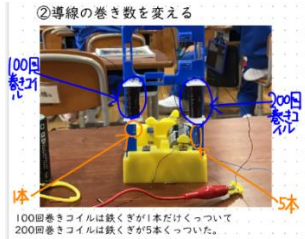


○授業で特に効果的だった使い方

- ・2年国語「スイミー」…大切な部分にサイドラインを引く
- ・3年算数「円と球」…立体を真上や真横から見て撮影
- ・3年国語「これが私のお気に入り」…手本を真横に配置したワークシート
- ・5・6年外国語…英単語の発音を調べてワークシートに貼り付け、繰り返し聞くことができるようにする。



・5年理科「電流がうみ出す力」…実験を考察に繋げるために実験の様子を撮影



自分が実験している様子を自分で記録することで、実験で観察すべき視点がはっきりとする。

実験の条件の違いと結果の違いの繋がりを、実際の実験の様子に直接書き込みができる。

②職員研修

○5月 双方向オンライン授業の仕方・自宅からのオンライン授業の仕方

○8月 「Microsoft Teams」を使って健康観察の仕方

タブレット持ち帰りに向けての共通理解

③タブレット持ち帰り本格実施

○健康観察

・感染症流行時の休日・臨時休校中等の健康観察に「Microsoft Forms」を利用した。

○欠席者への連絡

・「Microsoft Teams」「MetaMoji Classroom」を連絡帳として利用したり、ワークシートや板書を保存して学習内容を知らせたりすることができた。

○オンライン授業

・出席停止中でもオンライン授業を希望する児童や臨時休業等で通常の授業が難しい場合、「Microsoft Teams」「MetaMoji Classroom」を使って双方向型のオンライン授業を行った。

○家庭学習

・日常生活と授業で学習したことを繋げる学習の記録(図形・グラフ・自然の観察)を写真に撮って紹介し、学級で共有できた。

・「まなびポケット」等の学習サイトを使って、調べ学習や個に応じた学習がしやすくなった。

④集会活動

- ・新型コロナウイルスの感染状況によっては、体育館に集合せず、各教室を「Microsoft Teams」でつなぎ、リモートで行った。

⑤アンケート調査

- ・「Microsoft Forms」を使って児童対象に授業アンケートや学校評価を実施した。

3. 成果と課題

授業研究の度に「一人一台端末」の効果的な活用法を検討することができ、全教員が積極的に利用していた。授業研究をきっかけとして共通の話題ができ、年齢に関係なく、タブレットの使い方や授業の組み立て方を教え合う姿がよく見られた。また、タブレット持ち帰りを本格実施したことで、児童が主体的に活用できる場面が増え、学習の仕方が変化し、「一人一台端末」の活用度も向上した。一方、「学習道具・文房具としての一人一台端末」という児童への意識定着は不十分な面がある。今後も、各学年に応じた情報モラル教育充実を図りながら、「一人一台端末」の効果的な活用をしたい。